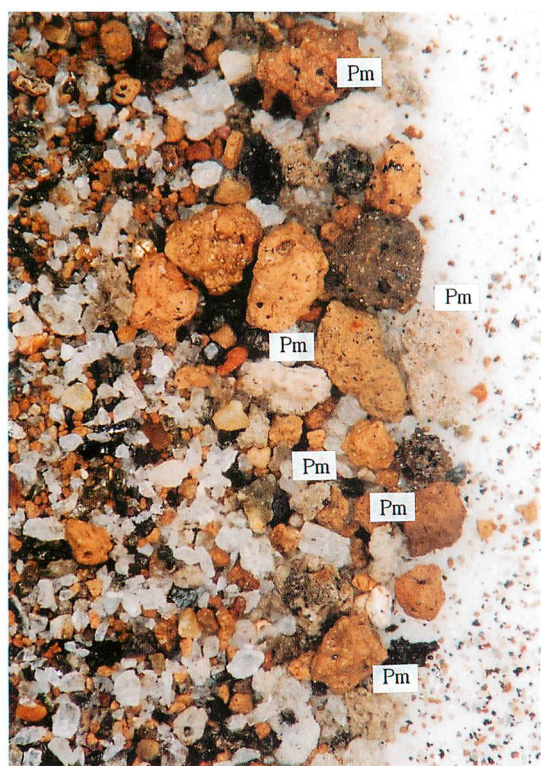




小田久保遺跡 2号住居跡 炉体土器(左) 出土土器2(右) 3(中央)

図版1 テフラ



1. As-B の軽石
江川南遺跡第17地点No 6

Pm：軽石。 Sc：スコリア。



2. 新期富士テフラノスコリア
江川南遺跡第17地点No15

2 mm

(株)東京航業研究所、(有)文化財 COM

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。特に、大井氏館跡遺跡第14地点の調査にあたっては富士見市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。また、江川南遺跡第19地点の調査にあたっては上福岡市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉(敬称略)

新井和枝、飯塚泰子、井上晴江、内田潔、大曾根キク子、笠原英子、加藤智香子、金子君子、小林こずい、河野匠、河野格、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、鈴木勝弘、関田成美、高貝しず子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、林きぬ子、比嘉洋子、増沢勝実、村端和樹、若尾久美子、若林紀美代

(富士見市教育委員会) 飯田久子、上田寛、川上文明、佐々木真理子、島田仁、清水七枝、関根輝子、高野ナミ、塚本政勝、戸田美根子、富田茂夫、中川和弘、成田淑美、成田良一、羽田美代子、吉田信江

(上福岡市教育委員会) 長田弘毅、壺岐ヒサ子、井川弘、宇佐美弘澄、遠藤忠志、小田静夫、小野沢保孝、菊口繁子、西城満期子、鈴木ちい、滝沢久嘉、富寺佐代子、中村正、宮崎達夫、吉田寛

〈整理作業参加者〉(敬称略)

青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、福島雅子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1 : 300 遺構平面図・遺物出土状況図 1 : 60、1 : 30 炉などの詳細図 1 : 30
土器実測図 1 : 4 土器拓影図 1 : 3 石器実測図 1 : 3、2 : 3 銭 1 : 1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山(ローム)  焼土 
土器 ● 石器★ 黒曜石・チャート▲ 礫○

(4) 土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文  撚糸文 

(5) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第4表 2004年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡・地点名	申請地	面積(㎡)	原因	試掘期間	調査期間	備考
1	鶴ヶ岡外遺跡第2地点	鶴ヶ岡5-196,197の一部	5,000	老人介護施設	2004.12.20~2005.2.2	2005.3.14~	試掘後、調査会で本調査
2	鶴ヶ岡遺跡第3地点	鶴ヶ岡3丁目	2,059	個人住宅	2005.1.7		試掘調査
3	江川東遺跡第8地点	東久保1丁目150他	6,137	共同住宅	2004.3.25~4.8		試掘調査
4	江川東遺跡第9地点	東久保1-6-19	464	保育園	2004.4.9~4.19	2004.5.10~5.25	試掘調査
5	東久保遺跡第58地点	ふじみ野2-27-2	558	分譲住宅	2004.4.13~4.14		試掘調査
6	東久保遺跡第59地点	ふじみ野2-25-7、8、9	1,804	店舗	2004.6.29	2004.7.14~7.23	試掘後、調査会で本調査
7	東久保遺跡第60地点	ふじみ野2-26-16	337	個人住宅	2004.7.22~7.24		試掘調査
8	東久保遺跡第62地点	ふじみ野2-25-16	220	個人住宅	2004.10.12~10.15		試掘調査
9	亀久保堀跡遺跡第30地点	ふじみ野2-25-1	659	店舗	2005.1.11~1.12	2005.1.31~2.7	試掘後、調査会で本調査
10	東久保南遺跡第33地点	ふじみ野4-9-2	354	店舗	2004.7.8~7.9		試掘調査
11	東久保南遺跡第34地点	ふじみ野4-9-2	555	店舗付共同住宅	2004.7.8~7.12		試掘調査
12	東久保南遺跡第35地点	ふじみ野1-5-8	194	個人住宅	2005.1.17		試掘調査
13	東久保南遺跡第36地点	ふじみ野4-8-7	1,005	事務所	2005.1.21~1.27	2005.2.7~2.15	試掘後、調査会で本調査
14	東久保南遺跡第37地点	ふじみ野4-10-1	695	駐車場	2005.2.10~2.14		試掘調査
15	西ノ原遺跡第127地点	旭1-13-4	222	個人住宅	2004.5.24~5.25		試掘調査
16	西ノ原遺跡第127地点	旭1-13-19	105	個人住宅	2004.5.24~5.25		試掘調査
17	西ノ原遺跡第128地点	旭1-16-9、10	614	店舗	2004.6.14~7.15	2004.7.16~9.29	試掘調査
18	西ノ原遺跡第129地点	旭1-11-5	235	共同住宅	2004.9.30~10.7		試掘調査
19	西ノ原遺跡第130地点	旭1-5-8	116	個人住宅	2004.10.14~10.15		試掘調査
20	西ノ原遺跡第131地点	旭1-5-13	97	店舗付個人住宅	2004.10.22		試掘調査
21	中沢前遺跡第25地点	苗間1-10-8	809	共同住宅	2004.6.4~6.10		試掘調査
22	神明後遺跡第23地点	苗間253	62	個人住宅	2004.4.9		試掘調査
23	神明後遺跡第24地点	苗間神明後293-4,10	148	個人住宅	2004.9.30~10.7		試掘調査
24	神明後遺跡第25地点	苗間295-1	660	店舗付個人住宅	2004.9.30~10.7		試掘調査
25	浄禅寺遺跡第24地点	苗間字神明後346-1、2の一部	391	個人住宅	2004.8.30~8.31		試掘調査
26	浄禅寺遺跡第25地点	苗間339-1,2	721	共同住宅	2004.9.22~10.12		試掘調査
27	浄禅寺遺跡第26地点	苗間字神明後354の2の一部	216	分譲住宅	2005.3.3~3.8		試掘調査
28	苗間東久保遺跡第23地点	苗間字東久保640-9	104	個人住宅	2004.9.1		試掘調査
29	小田久保遺跡第6地点	大井小田久保1207-5	306	個人住宅		2004.10.26~11.13	教育委員会で本調査
30	大井宿遺跡第8地点	大井1-6-7	282	個人住宅	2004.4.20		試掘調査
31	大井宿遺跡第10地点	大井1-3-16	341	分譲住宅	2004.9.21~10.6		試掘調査
32	大井宿遺跡第11地点	大井1丁目5番5,11	970	共同住宅	2004.12.10~12.20	2005.1.6~1.29	試掘後、調査会で本調査
33	本村遺跡第112地点	市沢1-17-16	289	共同住宅	2004.7.27		試掘調査
34	大井戸上遺跡第4地点	大井字東台689-3	128	個人住宅	2004.5.27		試掘調査
35	西台遺跡第5地点	大井字西台911-51	139	個人住宅	2004.6.17		試掘調査
36	東台遺跡第41地点	大井字東台648-4	182	個人住宅	2004.5.11~5.14		試掘調査
37	東台遺跡第42地点	大井640-4	515	教会増築	2004.9.7~9.17		試掘調査
38	東台遺跡第43地点	大井東台661-6	964	駐車場	2005.1.13		試掘調査
面積合計			28,657				

XVII 小田久保遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

小田久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.3 km、砂川堀の左岸、標高23～28mに位置する。本遺跡をのせる台地は緩やかな斜面を形成するが、対岸の南側台地は急傾斜をなす。

周辺の遺跡は、砂川堀を挟んだ南側台地上に旧石器時代の石器・礫群を検出した西台遺跡が、本遺跡の東側、微高地の突端には縄文前期住居を検出した大井氏館跡遺跡がある。

本遺跡は市街化調整区域のため比較的武蔵野の面影を残す農村地帯だが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の波が押し寄せつつある。

1990年に最初の試掘調査が行われて以来、過去の調査では数点の縄文土器片を確認しているだけであったが、2003年と2004年の調査において本遺跡では初の住居跡を検出したことにより、本遺跡が縄文時代中期の集落である事が明らかとなりつつある。今後は集落の分布や範囲の解明が待たれる。

分布調査や発掘調査から遺跡の時期は旧石器時代、縄文時代早期から中期、中世～近世である。

2 小田久保遺跡第5地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2003年8月8日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南側、砂川堀まで50m程の南斜面にあるため、原因者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構の存在確認の試掘調査を実施した。

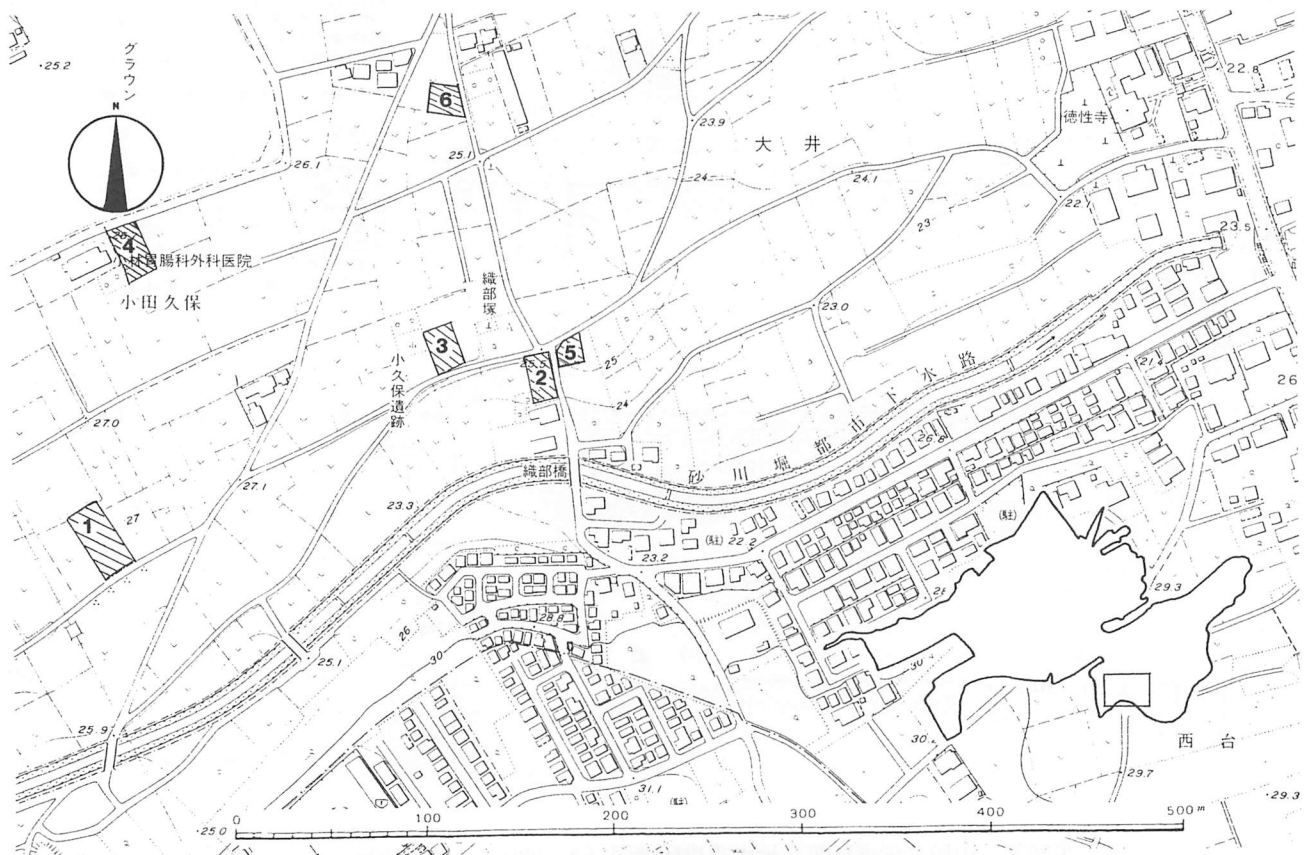
試掘調査は2003年8月18日から翌19日まで行った。幅約2mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果住居跡を確認した。住居跡の確認面まで30cmしかなく建築による遺構の破壊が免れないため、本調査することとした。

本調査は2003年8月20日から同年9月2日まで行なった。住居跡の範囲を重機で表土除去後、人力による調査を行なった。写真撮影・遺構測等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 1号住居跡

【位置】調査区の北端、遺跡の南側に位置する。本遺跡で初検出の住居跡である。150m北側に2号住居跡がある。



第77図 小田久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

【形状】北側の一部が調査区域外へ延長するが、平面隅丸長方形を呈する。規模は5.5×4.9m、確認面からの深さ35cm。周溝がめぐる。壁はほぼ直立するが、上端は緩やかに傾斜する。床面はほぼ平坦で踏み固められている。

【炉】住居跡の中央やや北側に位置する。炉は土器口縁部を転用した石囲い埋甕炉である。炉体土器の周囲を拳大の川原石を使って囲う。石囲いの範囲は58×53cm。石囲いの南側は60×40cmの範囲が熱で硬化し焼土が堆積する。炉全体は110×95cmの範囲が浅く皿状に掘り込まれる。炉体土器埋設の掘り込み規模は径38cm、深さ38cm。炉体土器は無文の口縁部。

【周溝】周溝は1本検出した。上幅は15～25cm、床面からの深さ10～25cm前後、断面「コ」字形を呈する。

【ピット】P1～3が主柱穴で柱穴間の距離は2.7～3.1m。

第35表 小田久保遺跡1号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No	平面形態	確認面		底面		深さ	備考
1	楕円形	56	× 46	40	× 35	76	
2	楕円形	40	× 33	19	× 14	67	
3	楕円形	64	× 55	36	× 27	66	
4	不整形	44	× 40	29	× 15	62	
5	楕円形	32	× 20	13	× 10	41	
6	楕円形	39	× 33	11	× 9	43	
7	不整形	56	× 28	47	× 30	34	

【時期】出土遺物から時期は加曽利EⅠ式期。

【出土遺物】1は石囲炉の炉内出土の無文口縁部片で、口径36cm・口縁外径40cm・現存部高6.5cmでほぼ全周する。外反する無文口縁の上面を内側に押し出して平坦面とする。細い沈線以下の体部は欠失する。胎土には白色砂粒と若干の茶褐色微砂粒・金雲母を含み、黄～赤褐色を呈し焼成良好である。時期の細分は困難であるが、中期中葉末か。

2は石囲炉の北方床面上出土で、口唇と口縁部文様帯の大部分を欠く浅鉢で、体部と底はほぼ完存する。口縁下部最大径34cm・底径10cm・現存部高14cmである。僅かに残る文様帯は、地文撚糸文の上に貼付隆帯で区画文と渦巻文を交互に配する。胎土には、白色細砂粒とローム粒を多く含み、黄褐色ないしは暗褐色を呈する。時期は加曽利EⅠ式である。

3は耳栓であり、上下層両端が僅かに開き、外径4cm・孔径1.8cm・高さ1.8cmで黒褐色を呈する。

本住居からは土器の細片が若干出土したが、勝坂Ⅲ式と加曽利EⅠ式のものである。

3 小田久保遺跡第6地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2004年10月12日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北側に位置し、南斜面の頂部にあるため、原因者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2004年10月26日から翌27日まで行なった。幅約2mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、住居跡、土坑、集石等を確認した。確認面まで30cmしかなく建築による遺構の破壊が免れないため、本調査することとした。

本調査は2004年10月28日から同年11月13日まで行なった。遺構検出の範囲を重機で表土除去後、人力による調査を行なった。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 2号住居跡

【位置】調査区の南東隅、遺跡内では北側に位置する。150m南側に1号住居跡がある。

【形状】平面隅丸方形を呈する。規模は4.2×4.2m、確認面からの深さ37cm。壁はほぼ直立し、上端は傾斜する。床面はほぼ平坦で踏み固められている。

【炉】住居跡の中央やや北西寄りに位置する。炉は深鉢胴部を転用した埋甕炉である。炉体土器の東側は20×10cmの範囲が熱で硬化し焼土が堆積する。炉全体は55×42cmの範囲が浅く皿状に掘り込まれる。炉体土器埋設の掘り込み規模は径18cm、深さ23cm。

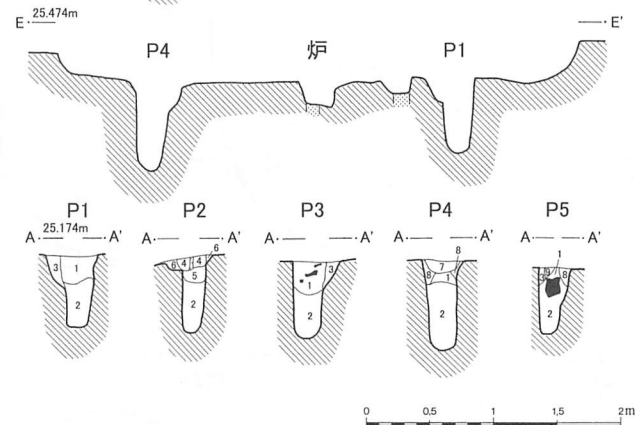
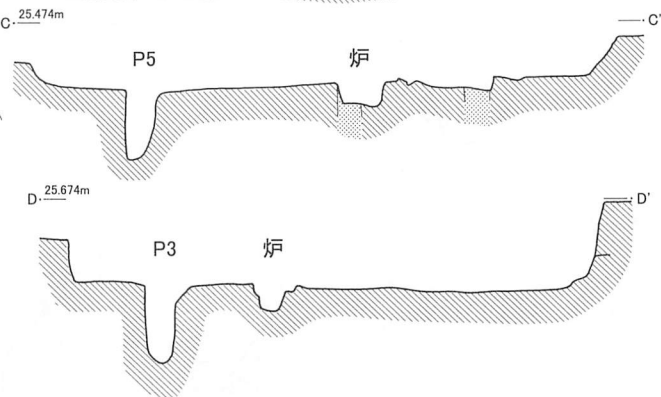
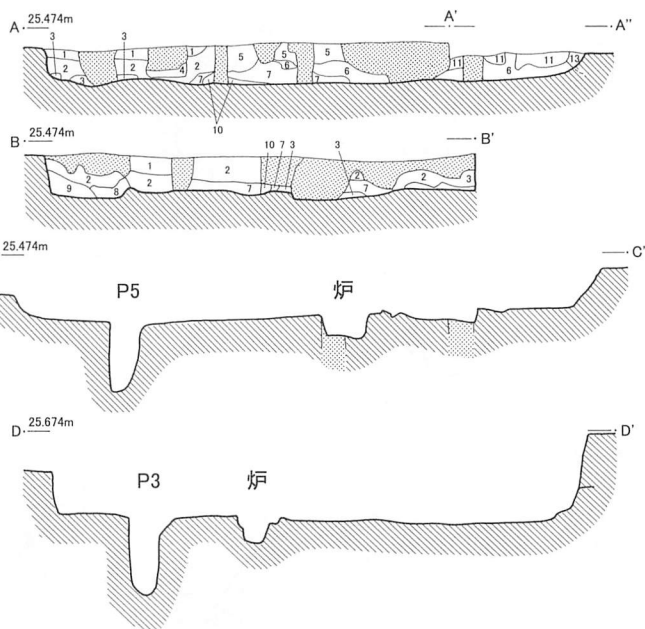
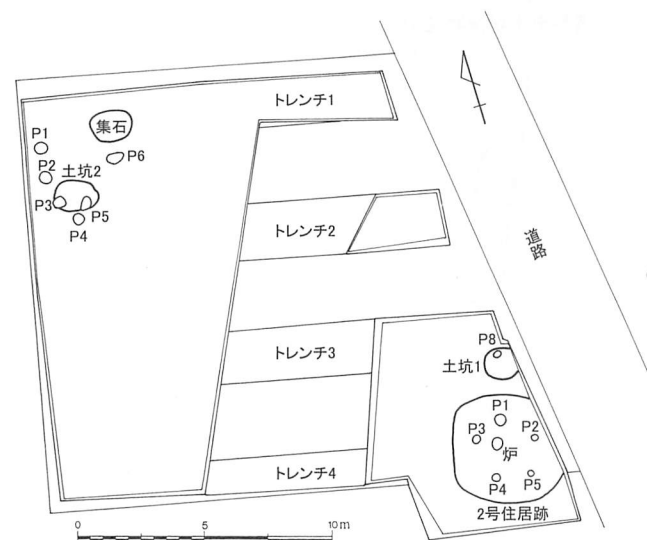
【ピット】P1～5の5本柱穴で柱穴間の距離は1.3～1.7m。

第36表 小田久保遺跡2号住居跡ピット一覧表(単位cm)

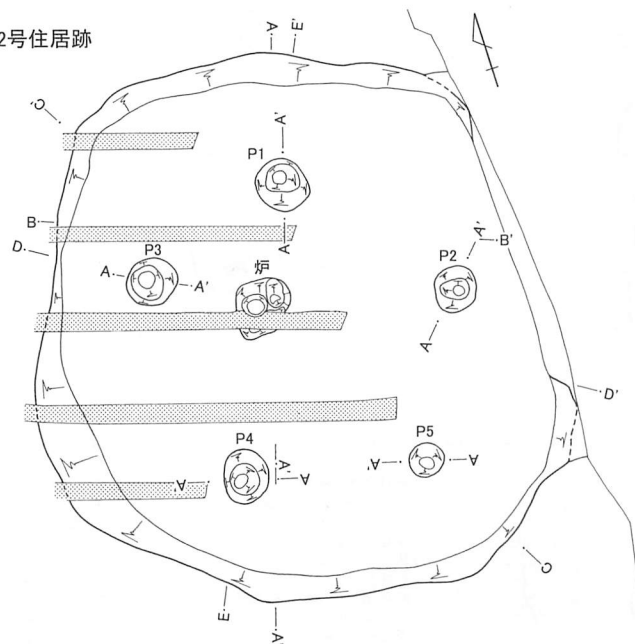
No	平面形態	確認面		底面		深さ	備考
1	円形	42	× 42	11	× 10	59	
2	円形	38	× 35	10	× 7	62	
3	楕円形	41	× 35	14	× 12	62	
4	楕円形	43	× 34	13	× 9	71	
5	円形	28	× 26	11	× 9	57	

【時期】炉体土器から時期は阿玉台Ⅱ式新相。

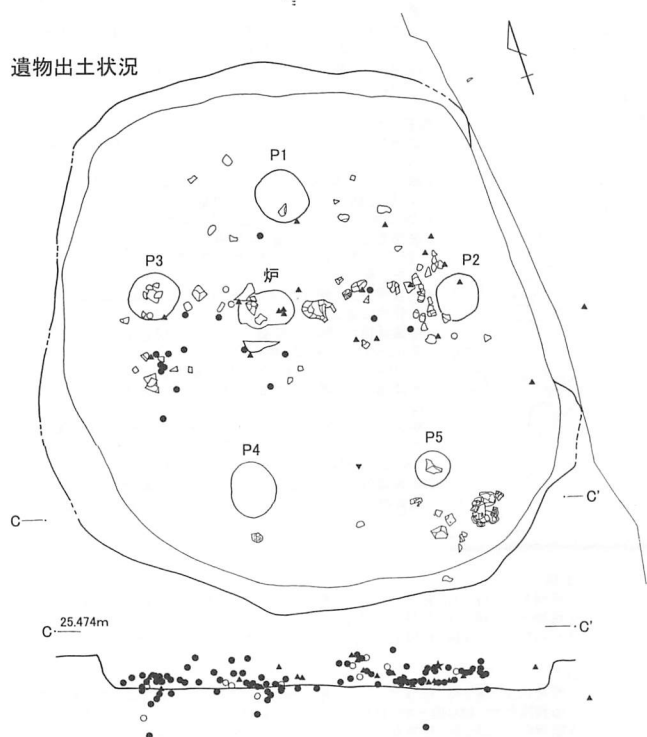
【出土遺物】1は炉内埋設土器であり、口縁を欠くが胴中位までをほぼ完存する。深鉢の胴下半を打ち欠いて炉体土器に転用したもので、上部径23cm・下部径15.8cm・現存部高18.8cmである。口縁部文様帯を欠失



2号住居跡



遺物出土状況



2号住居跡

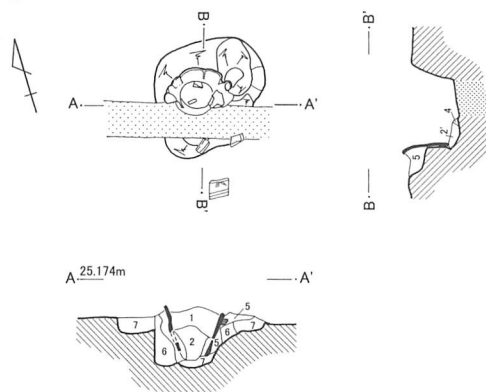
- 1.暗褐色土 締り有。粘性有。しみ状にロームブロックを中量、ローム粒(1mm以下)微量含む
- 2.暗褐色土 締り強。粘性有。しみ状にロームブロック少量、1層に比し色調暗め
ローム粒(1mm程)・炭化物(1mm程)微量含む
- 3.暗黄褐色土 締り有。粘性有。暗褐色土に地山のローム土が巻き上げられたように多く混入
- 4.暗褐色土 締り強。粘性有。2層土に似るが上の表土から続く攪乱を受け、色調暗め
ローム粒(3mm以下)少量、炭化物(1mm)微量を含む
- 5.暗褐色土 締り有。粘性有。表土のしみ込みが目立ち色調暗め、斑状に黒褐色土が混入
ロームブロック(10mm以下)・ローム粒(1mm以下)少量、焼土(1mm)微量
- 6.暗褐色土 締り強。粘性有。シミ状にロームブロック少量、ローム粒(1mm程)含む
1層に比し色調暗め。
- 7.暗黄褐色土 締り有。粘性有。2層に比し混入物多い、色調暗め。ロームブロック(20mm以下)
少量。一部しみ状。粒形ははっきりしたローム粒(2mm以下)少量だが目立つ。
炭化物(2mm以下)・焼土粒(1mm以下)微量
- 8.暗黄褐色土 締り有。粘性有。ローム土主体で暗褐色土中量含む
- 9.黄褐色土 締り有。粘性有。ローム主体で地山の可能性有り、しみ状に暗褐色土も少量
- 10.暗黄褐色土 締り強。粘性有。7層に部分的にみられる地山の明褐色ロームを多く含む
- 11.暗褐色土 混入物は少ない、色調暗め。ローム粒(1mm以下)少量。表土か
- 12.暗褐色土 締り強。粘性有。6層に比しローム土はシミ状でなく多めで全体の色調は明るめ
ローム粒(3mm以下)微量含む
- 13.暗褐色土 締り有。粘性有。色調暗めでローム粒(1mm以下)微量、
シミ状にロームブロック含む

ビット

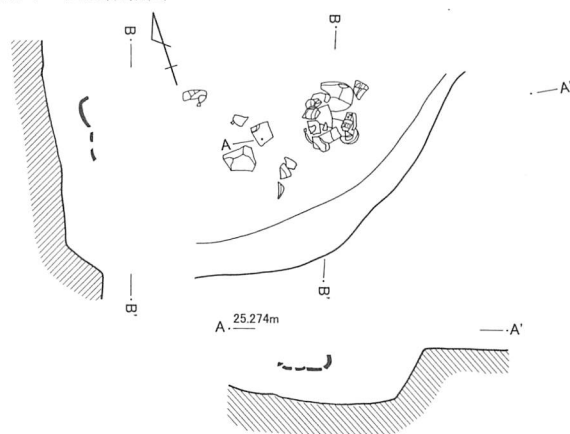
- 1.暗褐色土 締り強。粘性有。ローム粒(5mm以下(2mmが主))少量、炭化物(2mm以下)微量
- 2.暗褐色土 締り強。粘性有。ローム粒(2mm以下)を含むが1層より少なめで色調暗い
- 3.暗褐色土 締り強。粘性有。ローム粒(5mm以下)中量(多め)含む
- 4.暗褐色土 締り強。粘性有。ローム粒(3mm以下)少量、シミ状ロームブロック(3mm以下)微量
- 5.暗黄褐色土 締り強。粘性有。ローム粒(1mm以下)少量
- 6.暗褐色土 締り強。粘性有。1層に比し。しみ状にローム質土を多く含む、色調明るい
- 7.暗褐色土 締り強。粘性有。ソフトロームブロック(15mm以下)・ローム粒(3mm以下)少量含む
- 8.暗黄褐色土 締り強。粘性有。壁の崩落土を含め、しみ状にハードロームブロックを多く含む
暗褐色土ベースにローム粒(2mm以下)少量
- 9.暗褐色土 締り有。粘性有。ローム粒(1mm以下)少量。焼土粒(1mm以下)微量
表土の可能性有り、色調暗め

第80図 小田久保遺跡第6地点遺構配置図(1/300)、2号住居跡(1/60)

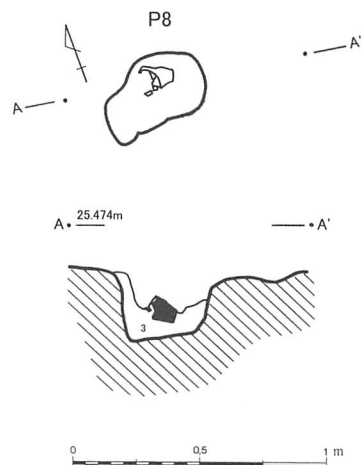
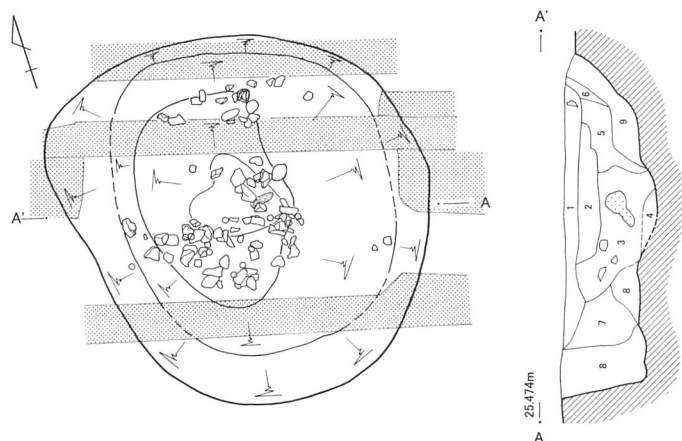
炉



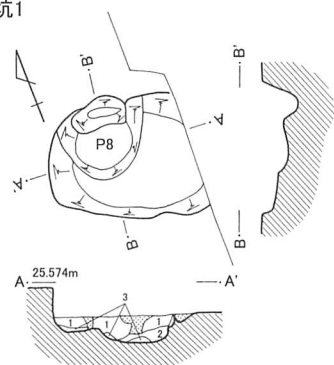
遺物出土状況微細図



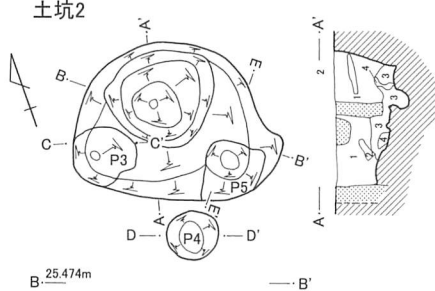
集石土坑



土坑1



土坑2



炉

1. 黒褐色土 締り強. 粘性有. ローム粒(1mm以下)少量、焼土粒(1mm以下)微量. 土器片含む
2. 黒褐色土 締り有. 粘性有. 1層より暗め. ローム粒(5mm以下)少量、焼土粒(1mm以下)微量
3. 暗褐色土 締り強. 粘性有. ローム粒(1mm以下)中量(色調黄色味おびる). 焼土粒(1mm以下)微量
4. 暗黄褐色土 締り強. 粘性有. しみ状に暗褐色土が含まれる. ローム主体
5. 茶褐色土 締り強. 粘性やや弱. ローム粒(2mm以下)中量、焼土ブロック(25mm)含む
6. 暗黄褐色土 締り強. 粘性やや弱. 被熱して硬化したロームブロックに暗褐色土が混入
7. 暗褐色土 締り有. 粘性有. ローム粒(2mm以下)中量、焼土粒(3mm以下)微量

集石土坑

1. 暗褐色土 締り有. 粘性有. 含有物少ない. ローム粒・角礫(45mm)微量
2. 黒褐色土 締りやや弱. 粘性有. ローム粒(3mm以下)少量(粉状). 焼土・炭化物(粒状)微量
3. 黒褐色土 締りやや弱. 粘性有. ローム粒(3mm以下)少量(粉状). 焼土・炭化物(1mm以下)微量. 60mm大までの円礫・角礫を多く含む
4. 明黄褐色土 締り強. 粘性有. ハードロームブロックに3層土が部分的に貫入する
5. 暗黄褐色土 締りやや弱. 粘性有. 暗褐色土ベースにロームブロック(50mm)中量、焼土ブロック(25mm)・ローム粒(3mm以下)・根攪乱少量
6. 暗黄褐色土 締りやや弱. 粘性有. 暗褐色土ベースにソフトローム粒(5mm以下)主体
7. 暗黄褐色土 締り強. 粘性有. 暗褐色土ベースにしみ状ローム土(30~40mm以下)中量、根攪乱(90mm). 炭化物(1mm以下)微量. 地山か
8. 明黄褐色土 締り強. 粘性有. ローム主体. 地山か
9. 暗黄褐色土 締りやや弱. 粘性有. ローム主体. 地山か

ピット

1. 暗黄褐色土 締り強. 粘性有. ローム粒(1mm以下)少量
- 1'. 1層にロームブロック(15mm)少量含む
2. 暗黄褐色土 締りやや弱. 粘性有. 暗褐色土ベースにローム粒(5mm以下)中量
3. 暗黄褐色土 締り強. 粘性有. ローム主体. 地山か
4. 暗褐色土 締り強. 粘性有. ロームブロック(15~20mm)少量、ローム粒(3mm以下)全体に中量含み色調は明るめ. 酸化土(3mm)微量
5. 暗褐色土 締り強. 粘性有. ローム粒(3mm以下)少量
- 5'. 暗褐色土 ローム粒はシミ状
6. 暗褐色土 締り強. 粘性有. ローム粒(約8mm)少量、特徴的に含む.
7. 暗黄褐色土 締り強. 粘性有. ローム土をやや多く含み、色調明るめ
8. 黒褐色土 締り硬い. 粘性有. ローム粒(3mm)・黒色土少量

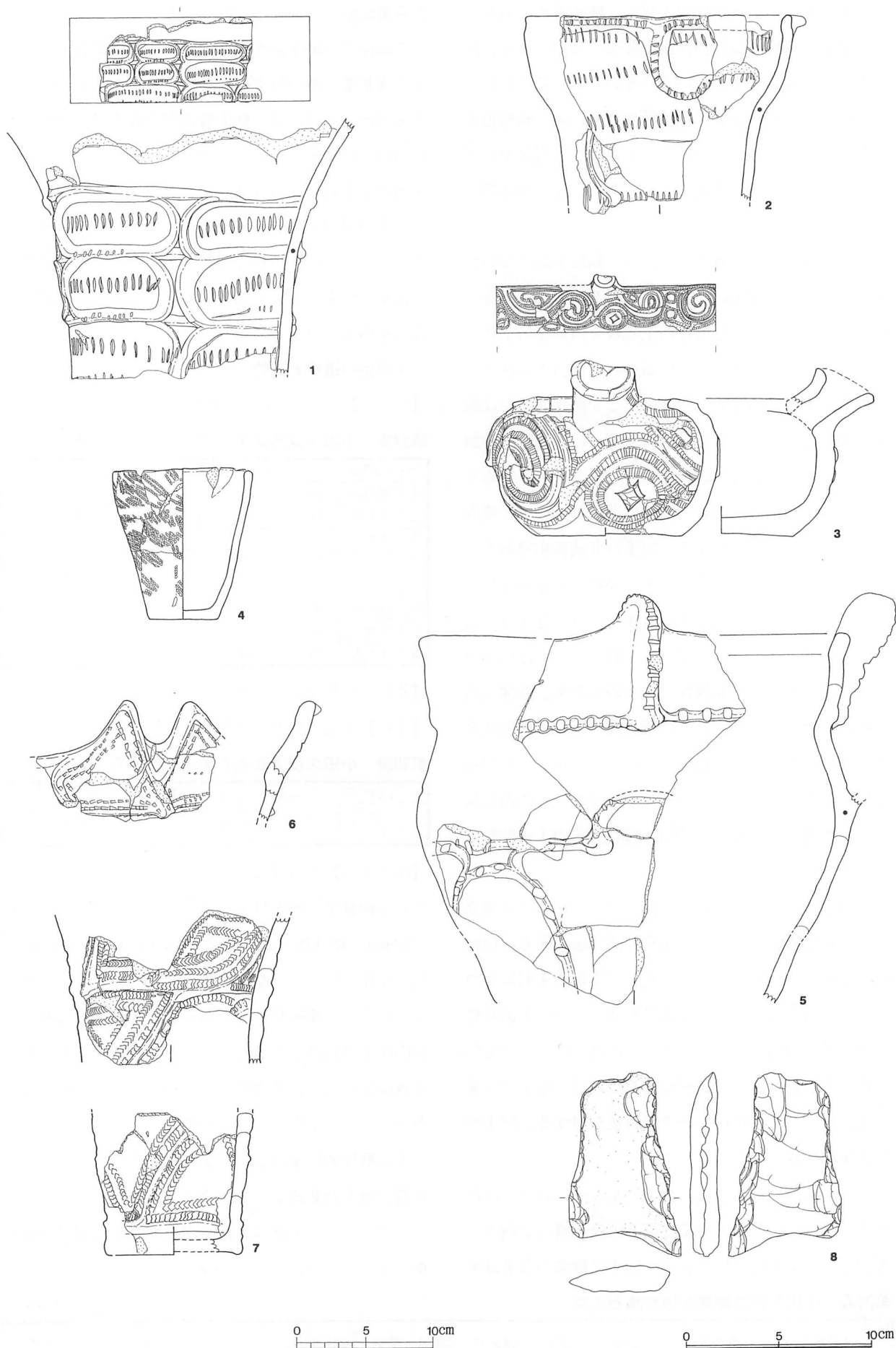
土坑1

1. 暗褐色土 締り有. 粘性有. ローム粒(1mm以下)・焼土粒(1mm以下)微量
2. 暗褐色土 締り強. 粘性有. 1層より色調暗い、シミ状のロームブロック(15mm)中量
3. 暗褐色土 締り強. 粘性有. 2層より色調暗い、焼土粒(1mm)微量

土坑2

1. 暗褐色土 締り有. 粘性有. ローム粒(3mm以下)少量、ロームブロック(10mm)微量
2. 暗黄褐色土 締り強~弱. 粘性有. シミ状の粒径さだまらないローム多量に含む
3. 暗褐色土 締り有. 粘性有. ローム粒(5mm以下)少量. 炭化物(2mm)微量
4. 明黄褐色土 締り強~弱. 粘性有. ロームブロック(15mm)含む

第81図 小田久保遺跡 2号住居跡炉、遺物出土状況微細図、集石土坑(1/30)、土坑、ピット(1/60)



第82図 小田久保遺跡2号住居跡出土遺物(1/4・1/3)

し、無文帯下の胴部は筒形を呈し、隆帯をめぐらし、この間に横に長い楕円径区画を隆帯で3段つくり、区画内には連続爪形文(突き引き)をいれる。胎土には、若干の白色砂粒と金雲母を多量に含み、赤～暗褐色を呈し、器内面下半に2次被熱によるハジケ現象がみられる。時期は阿玉台Ⅱ式の新相であり、住居の時期を示す。

2は床面出土の深鉢で、口縁から胴最上部までの約6割が遺存し、推定口径24cm・現存部高10cmである。膨らみをもって広がる口縁部上面は平坦に整形され、粘土貼り付けで突出した口唇端には、押し引き手法による刻目が爪形にめぐる。口縁下部まで鍵状、または蛸座状隆帯を4単位いれる。口唇直下・口縁部中央・胴部との境に、幅広で短い押し引文＝爪形文を3段にめぐらす。胎土には白色細砂と大量の金雲母を含み、焼成良好で赤～暗褐色を呈する。阿玉台Ⅱ式新相である。

3は住居内南東部壁よりの床面からやや浮いて出土した注口碗形土器で口縁から底までほぼ完存する。口径13.6cmで、この上方に径5cm・長さ4cmの注口がつく。口縁直下に幅広連続押し引文をめぐらす。器体全面に隆帯で抽象文をつくり、隆帯の内外は幅広押し引文を密に施文する。胎土に白色粗砂粒・輝石粉末・角閃石細粒を含み、焼成良好で赤褐色を呈する。器内面に煤の付着は認められない。勝坂Ⅱ式新相(藤内Ⅰ式併行)といえる。

5は大深鉢の口縁から胴上部までの6分の1を遺存する。復原推定口径36cm・現存部高28cmである。口縁は推定4ヶ所に突起があり、蛇状に下降する起帯をつくり、口縁と胴部の境にも隆帯をめぐらせ、上部を竹管状工具で押し引いて刻目とする。胴部の張る器形で無文地に大きいクランク状懸垂文をつける。胎土に多量の金雲母を含み、焼成良好で暗褐色を呈する。阿玉台Ⅱ式新相である。

6は2つの山形を連結した突起をもつ深鉢で胴部以下を欠失する。山形の隆帯と胴との隆帯境に2列の三角押し文(矢状押し引文)をもつ。胎土に微量の金雲母を

第38表 小田久保遺跡第6地点集石土坑

No	平面形態	土坑確認面	底面	高さ	礫範囲	礫数	重量	赤化数(%)	スス付着数(%)	完形礫数(%)	備考
1	楕円形	140 × 135	120 × 106	50	90 × 75	254	7,819	176 69.3%	32 12.6%	7 2.8%	やや散在

含み黄暗褐色を呈する。阿玉台Ⅱ式である。

7は深鉢の胴下部から底までの4割を遺存する。底から隆帯まで短い無文部をもち、隆帯をめぐらせて上下を区画した2段は、横走隆帯間を隆帯で三角形と平行四辺形区画をつくり、区画隆帯裾から内側に2列と区画内に1列の三角押し文(矢状押し引文)を連続施文する。胴中部は区画内を複列の連続三角押し文で充填する。胎土には白色砂粒と石英多量を含み、赤褐色ないしは暗褐色を呈し、焼成良好である。勝坂Ⅰ(新道)式新相のものである。

②その他の遺構と遺物

【ピット】P8より小形土器が出土した。

第37表 小田久保遺跡第6地点ピット一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
1	楕円形	49 × 40	26 × 22	19	
2	不整形	38 × 33	11 × 9	114	
3	不整形	50 × 45	8 × 6	61	
4	円形	41 × 39	27 × 18	29	
5	欠番	×	×		土坑2
6	楕円形	76 × 46	12 × 11	64	
7	不整形	46 × 45	16 × 13	31	
8	不整形	45 × 23	27 × 7	29	土器出土

【集石土坑】調査区北西隅に位置する。

【土坑】土坑1はP8埋没後に掘られている。

第39表 小田久保遺跡第6地点土坑一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
1	不明	(116) × 102	(95) × 77	33	P8より新
2	不整形	86 × 75	7 × 6	46	旧P5

【出土遺物】4は住居外の8号ピット出土のミニチュア完形深鉢で、90%以上を遺存し、口径9cm・底径49×52mm・高さ10.7cmである。地文はRLの単節細縄文で原体が短くラフな回転施文であり、地文のみである。胎土には粗砂粒若干と石英粉末を多量に含む。器の内面下半には2次被熱によるハジケが著しく、煤の付着は全くなく、煮沸用ではない。時期細分は困難であるが、縄文中期中葉のものである。

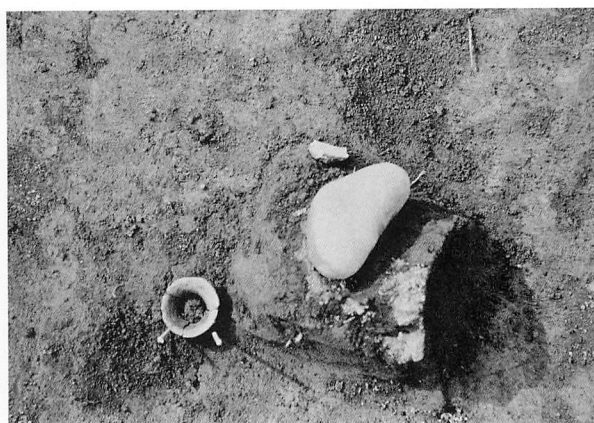
土器細片60片を割愛したが、勝坂Ⅰ式新相とⅡ式が6割、阿玉台Ⅱ式が約4割である。

8はホルンフェルスの自然礫を加工した撥型打製石斧で先端を欠損し、重さ104gである。

(単位cm・g)



小田久保遺跡 1 号住居跡土器出土状況



小田久保遺跡 1 号住居跡耳栓出土状況

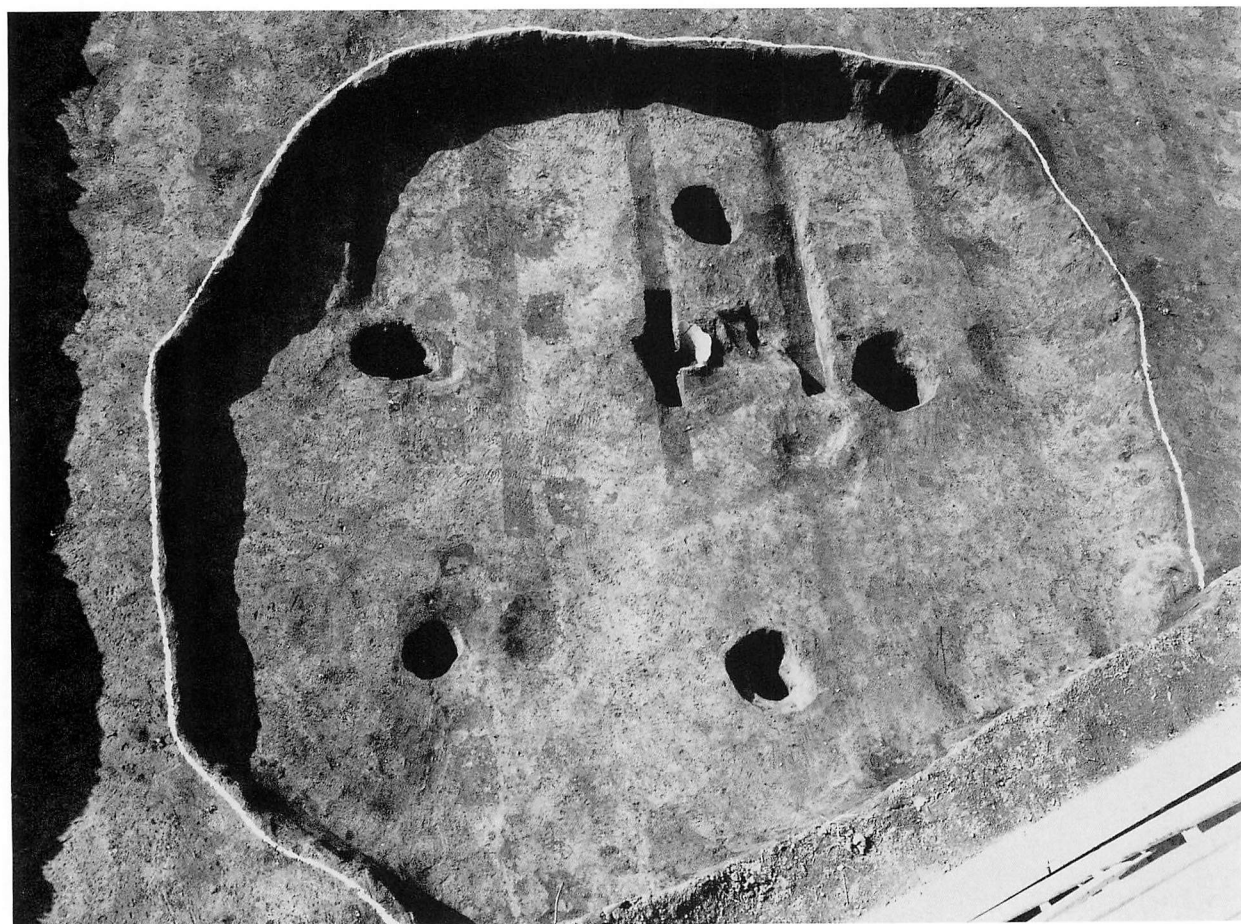


小田久保遺跡 1 号住居跡炉体土器

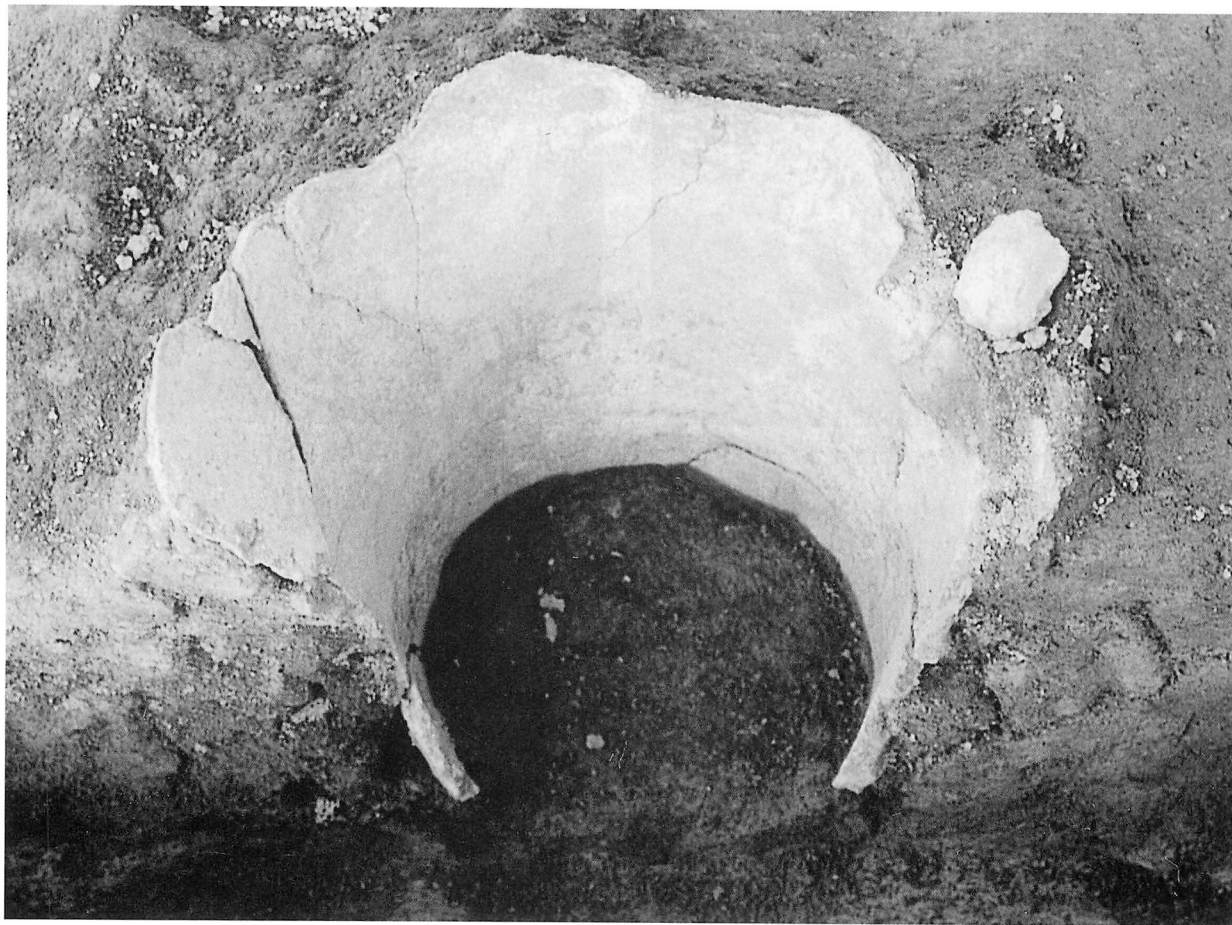
小田久保遺跡 1 号住居跡耳栓



小田久保遺跡 1 号住居跡出土土器



小田久保遺跡第 6 地点 2 号住居跡



小田久保遺跡第6地点2号住居跡炉



小田久保遺跡2号住居跡土器出土状況



小田久保遺跡第6地点集石



小田久保遺跡第6地点土坑1ーピット8



小田久保遺跡第6地点ピット8



小田久保遺跡 2 号住居跡炉体土器



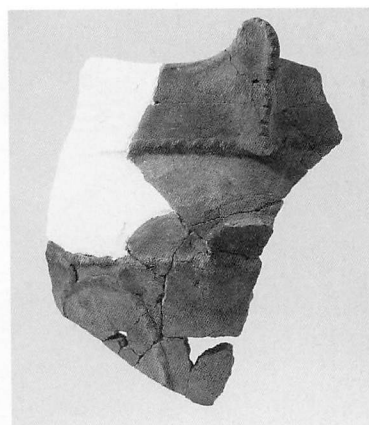
小田久保遺跡 2 号住居跡出土土器 2



小田久保遺跡 2 号住居跡出土土器 3



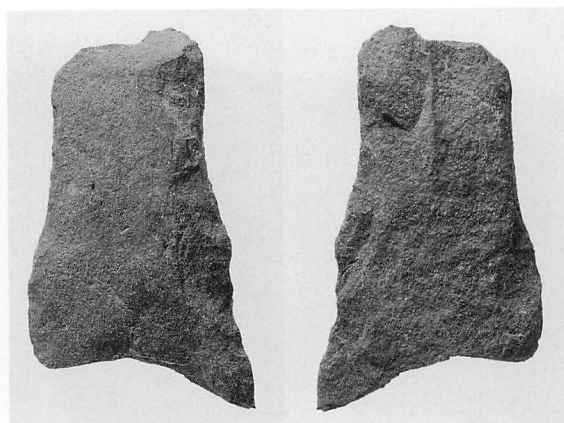
小田久保遺跡第 6 地点ピット 8 出土土器 4



小田久保遺跡 2 号住居跡出土土器 5



小田久保遺跡 2 号住居跡出土土器 6



小田久保遺跡第 6 地点出土石器